FESTIVAL

97年度

文化祭

CHUBU TECHNICAL ACADEMY OF MUSICAL INSTRUMENTS

校長 **伊藤晴雄**

新時代への多様な人材を求めて!!

グローバル社会に対応できる人材の育成が望まれております。

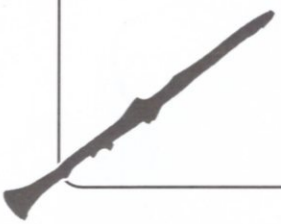
国境の垣根をとりはずしてインターネットを通して自由に情報交換のできる時代に貢献する能力を持った自律性が確立し、多様性への理解ができ、専門性を修得した世界を見渡して創造性・独創力をもって新しいものを開拓できる人物を企業も求め、学校もその育成に努力をしております。

本校も国際交流の一助としてイタリア楽器業界との調律師の交流、中国の南京芸術学院との調律師養成の合弁校の設立等を行っています。
今年の文化祭ではイタリアピアニストの協力を得て、愛環音楽連盟、松尾楽器、ベーゼンドルファーの協賛によりコンサートを開催致します。

世界の名器ベーゼンドルファーとスタインウェイをジェミテイ兄弟が十分に堪能させてくれるものと期待しています。

尚、コンサートチューナーは本校の卒業生でイタリアの業界で活躍した光田・荒木両君が担当してくれます。又、この機会に本校の実態を紹介するための展示や実技指導の会を持ちます。企画・運営は学生の意見を大巾に取入れて学生の自主性にまかせてあります。未熟な面も多かろうと思いますが、折角のチャンスですのでご参加いただきまして、ご高評・ご指導を賜われば幸甚に存じます。

中部楽器技術専門学校文化祭



〈音楽人口の拡大〉
〈楽器・楽器技術の啓蒙〉
〈音楽業界・楽器業界への貢献〉

デュオピアノ&オーケストラへの招待

10 / 26日(日)
●愛知県芸術劇場コンサートホール
●13：00開演

〈イタリアのジェミティ兄弟によるデュオピアノ〉
〈愛環音楽連盟オーケストラによる交響曲へのいざない〉

学生研究発表展示&メンテナンスサービス

11 / 2日(日)
●昭和区役所ホール
●10:00～16:00

(Ⅰ)歴史と楽器の構造　(Ⅱ)楽器メンテナンス法
(Ⅲ)実技体験にチャレンジ　(Ⅳ)来場記念品のプレゼント

中古楽器チャリティーオークション

11 / 2日(日)
●中部楽器技術専門学校前広場
●11:00～
●13:00～
●15:00～　計3回開催

出品楽器〈ピアノ・フルート・クラリネット・サックス・トランペット・ギター　等 約50点〉

CONCERT

デュオピアノ＆オーケストラへの招待

10／26日(日) ●12:30開場 ●13:00開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

PROGRAM

第1部

●ブラスの響きで開会セレモニー
（秋山紀夫指揮による中部楽器技術専門学校学生の出演）
●バッハ「オルガン・ファンタジーとフーガ・ト短調 BWV. 542」
●ルトスワフスキー「2台のピアノの為の
パガニーニの主題による変奏曲」

第2部

●ブルッフ「2台のピアノと管弦楽の為の協奏曲 Op.88」
●ベートーヴェン「交響曲第5番 ハ短調 運命」

指揮／竹本泰蔵　　解説／都築正道
出演／ファビオ・ジェミティ
サンドロ・ジェミティ
愛環音楽連盟オーケストラ
使用ピアノ／ベーゼンドルファーインペリアル
スタインウェイフルコンサート

PROFILE

★ジェミティ兄弟

『Fabio e Sandro GEMMITI』

ファビオ・サンドロ・ジェミティ兄弟は、レィティア・マンティーニの指導の下、フルマーク(満点)で卒業。彼らは数多くのピアノ・コンクール、ピアノデュオコンクールで受賞している。

◆第7回ツェルニー国立ピアノコンテストで第1位とリスト特別賞を受賞。
◆第14回リスト国際ピアノコンテスト銀賞受賞。
◆第2回バルトーク国際ピアノコンテスト2位。
◆第22回コッパイタリアピアノコンテスト優勝。
◆第2回(1992年)ローマ国際ピアノコンテスト優勝及びジェネラル保険賞受賞。
◆第12回国際ショパンコンクール(ワルシャワ)のイタリア代表に選ばれる。また、ベーゼンドルファーピアノとコンサート契約を結ぶ。

マルユッカリーニ率いるアブルツェベシンフォニー協会の演奏旅行に同行し大成功を各地で収めた。またミラノのコンセルヴァトワール・ヴェルディホールにてマリオ・コンテ指揮ロンバルジア・オーケストラと2台のピアノの為のコンチェルトを演奏し好評を博した。

彼らはイタリア各地(ミラノのコンセルヴァトワール・ヴェルディ大ホール、ミラノのエルベ劇場、ヴェニスのサンジョバンニ、エバンジェリスト・ホール、グラードの大集会場、ローマのハンガリーアカディ、カサナリーのバシリカ、ラクイーラのサン・フィリッポ劇場など)で、またヨーロッパ(ワルソー・ウイーン・パリ)各地でも活発に演奏活動を行っている。

今回が初来日。

★都築正道

1940年名古屋市生まれ。

名古屋大学文学部美学科を卒業。

関西学院大学大学院博士課程を終えて「ワーグナー研究」で文学博士。

現在、中部大学女子短大教授・金城学院大学非常勤講師・中部楽器技術専門学校特別講師。春日井市交響楽団音楽監督。愛環音楽連盟理事長。「桑名で歌う日本の第九」「NYの指揮者とソリストによる春日井第九」「愛環千人の第九」を企画。朝日新聞の音楽評を担当。名古屋オペラ・サロン主宰者。主著/『楽劇:音と言葉の美学』(音楽之友社)・『あくびなしの音楽講座:トスカ(同)。

★秋山紀夫

埼玉県出身。

1953年、武蔵野音楽大学卒業。

1956年、東京芸術大学音楽学部に内地留学。

昭和38年アメリカのイーストマン音楽学校に留学。昭和39年、中学全国2位、高校全国2位、職場の部でソニー吹奏楽団優勝と1人で3団体を全国大会で上位に入賞させるというかつてない成績をあげ、卓抜した音楽性と指導技術により、日本の吹奏楽を高める牽引力となった。

現在、武蔵野音楽大学講師・中部楽器技術専門学校特別講師。

★竹本泰蔵

1956年(昭和31年)神戸生まれ。

1977年(昭和52年)カラヤン・コンクール・イン・ジャパンで、ベルリン・フィルを指揮、第2位に入賞。

1981年(昭和56年)の名古屋フィルアシスタント・コンダクター就任を経て、現在コンサート、オペラ、バレエ、ミュージカルの公演指揮の他、編曲、ラジオ番組でパーソナリティーを務める等、多方面に活躍中。

コンサート活動では、札幌交響楽団、東京フィル、日本フィル、新日本フィル、名古屋フィル、京都市交響楽団、関西フィル等、数多く指揮。

曲目解説　都築正道

連弾の喜び

2種類の連弾　ピアノ連弾は、二種類あります。1台のピアノを二人で並んで弾く「4手連弾」と2台のピアノを二人で弾く「2台連弾」です。むろん、なにごとにも例外はあるもので、「62手16台連弾」というのもあります。16台のピアノを31人で弾くゴッドシャルクの作品です。

4手連弾　「4手連弾」は、家庭音楽の華でした。家庭音楽には、楽しい可愛い作品をファミリーで楽しむ暖かな雰囲気があります。連弾の父は、やはりモーツアルトで、彼は、美しい連弾曲を幸せな家庭のために数多く書きました。それからというものは、楽譜がたくさん売れるので、シューベルトをはじめとして、ウィーンの有名無名な貧乏作曲家たちは、競って連弾曲を書くようになりました。ブラームスは、4手の連弾のために『ワルツ集』や『ハンガリー舞曲』を書き、『ワルツ集・愛の歌』やその続編である『新愛の歌』は、混声合唱の伴奏を4手連弾が務めています。『ハンガリー舞曲』がベストセラーになったので、お弟子のドヴォルザークは、『スラヴ舞曲集』を書きました。ピアノが普及したロマン派の時代は、良き連弾音楽・幸せな家庭音楽・教養あるアマチュアの時代でもありました。

トランスクリプション　また、レコードやCDがない時代には、交響曲や室内楽の名作や新作を、2台のピアノや1台4手のピアノの連弾用に編曲して弾くこともありました。こういったほかのジャンルの作品を他の楽器編成で演奏することを「トランスクリプション」(移し替え)といいます。これは、勉強や情報収集や話題作りやオーケストラ楽譜のカタログ代わりや演奏会のレパートリー作りのためであり、また、ピアノの可能性を試す実験的な試みでもあります。こうしたオーケストラの名曲や大曲を、仲の良い二人で、心と手を合わせて弾く時の興奮と充実感は、なにものにも代え難い喜びです。その喜びは、聴き手よりも、演奏家のものであるかも知れません。

男性の連弾演奏　「連弾といえば、ラベック姉妹のように、美しく可憐な女性ピアニストだけのものだ」などとお思いになってはいけません。本日お聴きいただくファビオとサンドロのジェミティ兄弟のように、バッハやブラームスやショパンやラヴェルなどの大曲には、豪快な男性連弾弾きがとても似つかわしいのです。そして、ブルッフの協奏曲です。とても女性では弾けない力技を必要とする大曲であることを歴史が証明しています。今夕、お聴きいただくピアノ連弾曲は、モーツァルトの『ソナタ』のような「優しいオリジナル作品」から、ブルッフの『2台のピアノとオーケストラのための協奏曲』のような「名曲・大曲・難曲」にいたるまで、連弾の諸相を露わにして見事です。弾き手の興奮と充実感が、きっと、あなたの人生に、新しい幸せと喜びをもたらしてくれることでしょう。

バロックと現代を結ぶアヤトリ連弾

オルガン・ファンタジーとフーガ・ト短調　BWV.542 [10:30]

ヨハン・セバスティァン・バッハ（1685-1750）作曲

豪壮なバロックの大伽藍　なんといってもバッハです。すべてに規模雄大で、それでいて細部には魅力的なデザインが空間恐怖を所狭しとがっちりとしていて、完璧で揺るぎないバッハの構成力は、まさに豪壮なバロック建築の大伽藍です。まだピアノの誕生期にあったバッハの時代には、これといったピアノ連弾曲はありません。でも、音楽の宝庫、バッハの作品から連弾曲を作り出さないほど、ピアニストたちは怠慢ではありません。この「オルガン・ファンタジーとフーガ」(1720？)は、その名の通り、原曲はオルガンのための作品ですが、ピアニストのR.ブルマイスターが連弾用に編曲しました。

ファンタジーは即興曲　バッハの場合、ファンタジーでも、トッカータでも、プレリュードでも、すべて調律のための即興曲です。どれも、あとでフーガをきちっと良い音で弾くために、その「前奏曲」(プレリュード)としてガチャガチャと「掻き鳴らす」(トッカーレ)のです。それが、時には「幻想的」(ファンタジー)に聞こえても仕方がありません。バロック期の鍵盤楽器の演奏家は、楽器の前に立って、左手だけで鍵盤をあれこれと叩いては、右手で調律をすませ、それから、おもむろに座って両手で主部のフーガを弾き始めます。

フーガの技法　西洋の精神文化の論理と倫理の頂点にあるのが「フーガ」です。ここには、数理的な絶対性と楽理的な論理性と物理的な音響性が一体となって響きあっています。「その難しいフーガを二人で弾くのは少々お手軽な気がする」などと思ってはいけません。ここにブルマイスターの編曲の妙があるからです。4本の手からでなければ出てこない、複雑で、怪奇で、

饒舌で、喧噪なフーガこそ、バッハ的なものの大いなる顕彰だからです。バロックの語源は、いびつな真珠。バロックは、ルネサンスの均衡のとれた神のような調和の世界に異を唱えて、鋭い対立と劇的激しさの悪魔性をその信条とします。西洋の美学の真髄である、完璧なものとそれを内部から打ち壊そうとする二つの大きな力のいつ果てるとも知れぬ激しいせめぎ合いこそ、まさに、寄せては返す、フーガの真髄でもあります。

パガニーニの主題による変奏曲 [10:30]

ヴィトルト・ルトスワフスキー（1913-1994）作曲

ハリネズミの頭　ポーランドの作曲家ルトスワフスキーの名前は、日本ではまだそれほど良く知られていませんが、絶えず「新しさ」を追求した20世紀を代表する現代音楽の大家であることは間違いがなく、本日のように、もっと多くの良い作品が私たちに次々に紹介されていい時期に来ています。ヴァイオリンの名人パガニーニ(1782-1840)が残した無伴奏ヴァイオリン組曲「カプリッチョ」全24曲(1810？)は、多くの謎と怪奇的な魅力を秘めた音楽史の奇跡です。リストやシューマンやブラームスやヨアヒムやラフマニノフなど多くの有名な作曲家たちが、この作品の主題を基にした変奏曲を書いています。自らピアニストでもあったルトスワフスキーもこの試みに挑戦して、彼もまた、ラフマニノフと同じようにもっとも有名な最後の「第24番の主題」[譜例] を用いて「12曲の変奏曲」を書きました。25才の1938年の作品なので、彼の音楽の特色である、現代音楽固有の十二音技法や偶然性音楽の手法はまだ使われていません。きわめて古典的な響きをもった変奏スタイルが中心で、それだけに、シューマンやブラームスと同じでカードで勝負をしようとした、若き彼のフェアーな精神は大いに賞賛されて良いでしょう。因みに、「カプリッチオ」とは、怒った「ハリネズミ(ルチオ)の頭(カポ)」という意味です。鋭い針が、あちらこちらにピンピン飛び出して人を刺す音楽です。この第24番の主題は、まさにハリネズミの頭です。

もう一つの協奏曲

4台のピアノとオーケストラのための協奏曲

マックス・ブルッフ(1838-1920)作曲

名曲の数奇な運命　これからお聴きいただくのはドイツ音楽の正統的な作曲家マックス・ブルッフの「協奏曲」ですーといえば、みなさんはむろん、「ヴァイオリン協奏曲だ」とお思いでしょう。残念でした。本日は、ブルッフのもう一つの代表的な協奏曲をお聴きいただきたいのです。この「2台のピアノとオーケストラのための協奏曲」（作品88-a）が、名曲であり、重要な作品であるにもかかわらず、彼の「ヴァイオリン協奏曲」ほど知られていないのは不思議なことです。でも、それにはそれなりの理由があります。まず、あまりにも連弾ピアノのパートが難しいので演奏される機会が少ないことです。それに、ブルッフの原譜が盗まれて、隠蔽され、ほとんど分からないまでに書き直されて、失われ、忘れられて、1971年に再発見されて、訴訟事件に発展して複雑な版権問題がおきるといった数奇な運命をたどった曲だからです。

アメリカの連弾ピアニストの訪問　1911年のある日、アメリカのデュオ・ピアニストのローズ・スートロスとオッテュ・スートロスの姉妹はベルリン郊外のフリーデノウへブルッフを訪ねました。二人は連弾を専門とする最初期のピアノ連弾奏者でした。姉妹はブルッフの前でブルッフが22才の時に作曲した「2台のピアノのためのファンタジー」を弾きました。そして、「私たちのために2台のピアノとオーケストラによる大作を書いて欲しい」と頼みました。１年後にブルッフは2台のピアノ・パートのスケッチを完成させましたが、全曲を書き終えたのはそれから3年後の1915年でした。

スケルツォ楽章　スートロス姉妹は新曲を楽しみにして再びブルッフを訪ねました、彼は二人に新しい協奏曲の楽譜を渡し、一月練習させた後で、ブルッフ自らがベルリン・フィルの指揮をしてリハーサルを行いました。その結果は惨憺たるものでした。ブルッフは、彼女たちに「せめて、ドイツでは演奏してはいけない」と言い渡しました。姉妹にはとても難しくて弾けなかったのです。アメリカに戻った二人は、翌年(1916年)、レオポルド・ストコフスキーの指揮で、フィラデルフィア・オーケストラと協演して初演しました。その翌年の1917年にヨセフ・ストランスキーの指揮するニューヨーク・フィルと協演したときには、姉妹はピアノ・パートを大幅に書き換えて弾きました。どうにも難しくて、ブルッフの楽譜通りには弾けなかったのです。どちらの場合も、「ブルッフの協奏曲」に対する批評家たちの反応はそうじて鈍いものがありました。この２回の演奏会のあとで、ブルッフのオリジナルの楽譜は忽然として消えてなくなりました。

幸せな改竄版の発見　1971年にオッテュがバルティモアで亡くなると、彼女の遺産が競売に掛けられました。そのとき、ピアニストのナタン・トゥワイニングが、11ドル出して古い楽譜や新聞や雑誌束を競り落しました。その中に図書館の印が捺され、1916年と書かれた珍しい2台のピアノとオーケストラのための協奏曲の楽譜がありました。これがブルッフのオリジナルとされていたオッテュの改竄版でした。たくさんの個人や団体の財政的援助をえながら、チェリストのヘルマンブッシュをはじめとする音楽家たちが、この改竄版を元にして、ブルッフの筆跡や音符を調べながら全曲を復元しました。ここにブルッフの「2台のピアノとオーケストラのための協奏曲」が60年ぶりに日の目を見たのです。

再初演　発見者のトゥワイニングとマーティン・ベルコフスキーの二人はアンタル・ドラティ指揮のロンドン・シンフォニー・オーケストラとの協演で初めて「正規のブルッフ版」による「2台のピアノとオーケストラのための協奏曲」のレコーディングを行いました。1974年のことでした。この快挙によって、ブルッフのもう一つの協奏曲は正当に評価されて、ロマン派の数々の偉大な協奏曲の中のしかるべき位置を占めることになりました。

イタリアのジェミティ兄弟とドイツの作曲家ブルッフ　2台のピアノの力強く印象的なユニゾンで始まります。そのあと、やはりピアノで静かで美しい歌が流れます。この二つの主題が全曲の主題です。数年前（1904年）、気管支炎を患っていたブルッフがイタリアのカプリ島へ保養に出かけたときに聖金曜日の祝日のパレードで聴いた音楽です。数百人の子供たちが、全員白いローブを着て、片手に十字架を持ち、片手に蝋燭をもって島を練り歩きました。先頭に立ったリーダーがチューバでファンファーレを奏で、そのあとを子供たちが敬虔な単旋律の歌を歌いながらついて行きます。ブルッフはチューバと単旋律の歌のメロディを二つ書き取って、ドイツにいる家族に手紙で送っています。このメロディが特に気に入ったのか、「オーケストラとオルガンのための組曲」にも用いています。イタリアからやってきたジェミティ兄弟がなぜブルッフのこの協奏曲を弾きたがったかこれで分かりました。ナポリでの演奏会も多い彼らにとって、ナポリ湾の沖合に浮かぶカプリ島はブルッフ以上に、一衣帯水、おなじみの地です。

第1楽章（ゆっくりとおだやかに・音を保って）[4:58]　2台のピアノがユニゾンで重い主題を弾きます。これがカプリ島でブルッフが聴いたチューバの主題です。最後の音だけファゴットが音を重ねてチューバらしい響きを出します。そのあとピアノだけがたどたどしく単旋律のメロディを弾き始めます。これが子供たちが歌った歌です。次第にフーガ風に展開されながら、オーケストラのチューバの主題と絡み合い大きな流れとなってクライマックスへと進んでいきます。

第2楽章（ゆっくりとおだやかに・動きをもって－快速に）[6:20]　滑稽なスケルツォ楽章ですが、ゆっくりした導入部で始まります。弦楽器の夢見るような上昇音型がロマンティックな階段を登っていくと、突然、テンポの速いリズミカルな行進曲に変わります。スケルツォの主部です。ピアノで登場するスケルツォ主題は親しみやすい軽快なもので、すぐにオーケストラも嬉しそうにそれを真似ます。みなさまもすぐに覚えて帰りの地下鉄の中で口ずさむこともできるでしょう。まるで全曲の最後のような華やかさで終わりますが、ここで拍手しないで下さい。

第3楽章（きわめてゆっくりと・速すぎないように）[5:52]　子守歌のように平和で美しい音楽で満ちあふれています。私も一番好きな楽章です。ピアノがきれいな歌をたくさん歌います。木管のソロもそれにあわせて、美しく歌います。転調も多く、メンデルスゾーンとブラームスに心酔したブルッフらしく、ロマンティックな心理的陰影を見事に出していきます。

第4楽章（ゆっくりとおだやかに－快速に）[5:33]　第1楽章で聴かせた「チューバ主題」で始まります。主部はすぐに堂々たる行進曲となって最後まで勝利の歩みをゆるめません。

交響曲による理想の実現

交響曲第5番・ハ短調

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770-1827)作曲

革命的な交響曲　「ベートーヴェンは新しい聴衆を作曲した」(パウル・ベッカー)と言われるように、革命的な音楽家である彼は「聴衆のための音楽ではなく、音楽のための聴衆だ」と思っていたようです。その良い例が、1808年12月22日に行なわれたベートーヴェン主催の演奏会です。

これは音楽史上有名な大失敗に終わりました。その原因は、まず、2部8ステージにおよぶ盛りだくさんの演奏曲目すべてが彼の未公開新作であったこと、そして、練習不足のままで本番を迎えたことにあったようです。

この初演を聴いた人が、その中の一つ『合唱幻想曲』の終楽章について次のように語っています－「まるで、制御のきかなくな

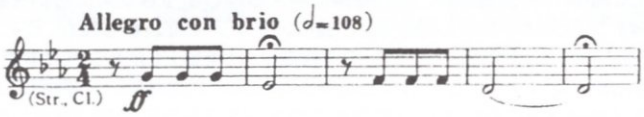
った車が丘を走りおりるように、転覆は避けられないと思った。演奏者たちは混乱してしまい、ベートーヴェンは演奏を途中でやめてもう一度最初からやりなおさなければならなかった」。演奏会は深夜までつづき、未完成のままで終わったベートーヴェンの作品＝聴衆たちは「帽子をかぶろうにも頭がどこにあるか分らない」まま、寒い冬の夜道を帰宅の途に着きました。この失敗のショックは大きく、ベートーヴェンは一層のことウィーンから逃げ出して、ナポレオンの弟のヴェストファーレン国王のもとで宮廷楽長になろうと決心をしたほどでした。この思いは、幸いにもウィーンの貴族たちの説得で沙汰止みになりました。

理想の実現　さて、その夜初演された曲は、『合唱幻想曲』の他に、「田園生活の思い出」と題する『交響曲』(「田園」交響曲のこと)、アリア『ああ不実なる人よ』、『ハ長調ミサ』(抜粋)、『ピアノ協奏曲第4番』、『大交響曲ハ短調』(「運命」交響曲のこと)、ラテン語による『賛歌』、ピアノ独奏『幻想曲』でした。なぜベートーヴェンは、これほど多くの、それもこれほど様々なジャンルの曲を、一晩で一度に初演しようとしたのでしょうか。それも、演奏者ばかりではなく、聴衆をも混乱させることを承知しながら…。それは彼が、自分の理想とする世界の多様な姿をそのままリアル・タイムに表したかったからにほかなりません。芸術が「理想の実現」であるならば、「リアルな世界」を表現することは、取りも直さず、長い時間をかけて人類によって「実現(リアライズ)された世界」を現すことでもあるからです。

「交響曲第5番」の特質　どんな交響曲でも、「絶対音楽」か「標題音楽」か、音楽構造は「主題労作(thematische Arbeit)」か「美しいリート的主題」か、主題展開は「開放的循環形式(前楽章の回帰」か「物語的展開」か、主題音型は「各楽章を統一するオクターブ音型」か「多様な動機の組合せ」か、楽章数は「4楽章」か「多楽章」か、スケルツォは「ABA」か「ABABA」か、オーケストレーションは「精神的に厳しい響き」か「自然でアコスティッシュな響き」か、などなどが上げられましょう。第5番はいずれも前者をとりました。また、楽器編成での「新しい楽器の採用」、「ソロ演奏の多用」、「マニフェストの採用」(「苦しみを通じて歓喜へ」と「自然と人生」)、アーティキュレーションの活用」(スフォルツァンドの多様、第3楽章からフィナーレにかけて{ppp}から{ff}まで前代未聞の50小節におよぶ長大なクレッシェンド) などなどです。

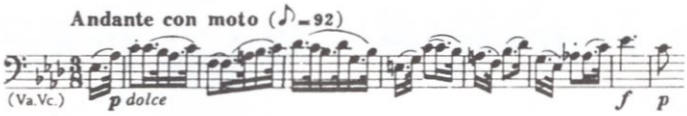
第1楽章(快速に元気良く)ハ短調・2/4拍子　ソナタ形式です。冒頭から登場する有名な第1主題はわずか4小節です。それも、同じ形をした2小節づつの二つの動機(「運命の動機」と言われています)からなっている単純なものです[譜例1]。この主題の特長は、リズムと旋律形にあります。リズムは、大切な強拍(第1拍)が休止符になっている特異なものです。この休止符をどう演奏するかで、全曲の構成が決まります。例えばこの休止符を、アクセントをすべて吸い込むブラックホールと考えて、主題全体を一息に流れるフレーズとして快調に歌いだすか、または反対に、この休止符に強いアクセントを与えて、その反作用で「ウン・バッ」とエネルギッシュに飛びだすか…ここは指揮者が演出家を兼ねる瞬間です。主題は、ハ短調の主和音(ミド[ラ])と属和音(レシ[ソ])を分散したもので、冒頭から主要主題が現れる「英雄」交響曲や多くのピアノ曲によく見られる、ベートーヴェンお得意の音型です。もちろん、第4楽章の主題[譜例9]もその良い例です。「運命」の動機は、第1楽章全502小節

[譜例1]



第2楽章(ゆっくりと動きをもって)変イ長調・3/8拍子・変奏曲形式　6部からなる変奏曲です。主題は(前楽章とは反対に)22小節もある長いものです。この主題[譜例2]もその対旋律[譜例3]もやはりオクターブを目指しています。第1部の主題の呈示につづいて、第2部(呈示部の忠実な変奏)、第3部(3回変奏)へと進みます。この第3部のクライマックスでは、突然トランペットとティンパニが強音で、それも「チャンス到来」「待っていました」とばかりに自分の都合で勝手気ままに鳴ります。この勝手気ままさは、二つの楽器とも「ハ音」しか出すことが出来ないので活躍する場が限られるからです。しかし、この「ハ音」は最終楽章を準備するものであると同時に、次の第4部(自由な変奏)をハ長調へと導くものでもあります。また、ここでの長3度(変イ長調→ハ長調)の大胆な転調は、この楽章を複雑な性格に仕立て上げるのに成功しています。ロマン派のオペラなどでは、心理的な葛藤を現すシーンによく登場するおなじみのものになっています。第5部は全体のクライマックスとなり、第6部はコーダです。

[譜例2]

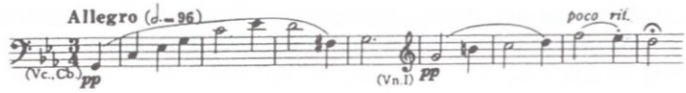


[譜例3]

第3楽章(快速に)ハ短調・3/4拍子・スケルツォ　A(スケルツォ=ハ短調)[譜例4] —B (トリオ=ハ長調) —A'(スケルツォ)の3部形式です。昔から問題の多い楽章で、この3部形式も本当にベートーヴェンの考えていたものかどうかはっきりとは分りません。彼は当初、この楽章を『田園』のようにABABA'の大規模なスケルツォで書き初演をしました。その2年後に、楽譜出版社宛の手紙で途中をカットするように指示しており、そのカットのなかに反復記号が含まれていたので話がおかしくなったのです。古くはメンデルスゾーンをはじめとして、近頃ではブーレーズや東ドイツの指揮者ペター・ギュルケなどが各々の考えに基づく演奏をしています。さらに複雑なのは、終楽章でこのスケルツォ主題がまた現れることです。この交響曲は、そのため「開放的循環形式」を成している、と言われています。A'のスケルツォの後半は、延々50小節にわたる{ppp}から当時の最大の音量を表す{ff}への凄まじいクレッシェンドです。蓄えられた巨大なエネルギーが、そのまま次の楽章まで突き進んで爆発します。

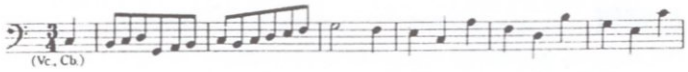
[譜例4]

スケルツォ主題



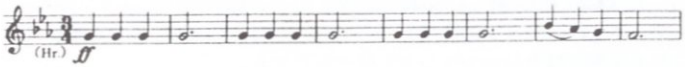
[譜例5]

トリオ主題



[譜例6]

主要動機

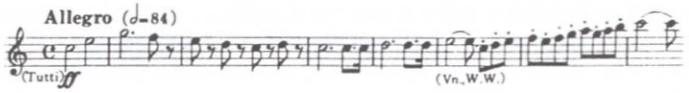


第4楽章(快速に)ハ長調・4/4拍子・ソナタ形式　ハ短調からハ長調への突然の転調は極めて劇的な効果を与えます。真っ暗闇の暗黒の世界に聖なる正義の火が閃いたように、だれでも大きな感動を覚えることでしょう。もちろん、ベートーヴェンのモットーである「苦しみを通して歓喜へ」"Durch Leiden zur Freude"を音楽で表したものですが、この手法はハイドンが『天地創造』(1799年)で「光あれと言えばすなわち」(ハ短調)→「光ありき」(ハ長調)で用いたのと同じもので、ベートーヴェンのオリジナルではありません。

この年(1808年)の3月、老いた76歳のハイドンを招いて彼の誕生祝賀音楽会がウイーン大学で行なわれたとき、ベートーヴェンは馬車から降りたったハイドンの前に進みでて、その手に接吻をしました。ベートーヴェンは『天地創造』の記念公演を聴きながら、二月ほど前にほぼ完成している自作の交響曲が、同じ聴衆に与える同じような効果に思いを致していたのかも知れません。当時の聴衆は微笑みながら「ハイドンの光はやかまし過ぎる」と彼のアイデアを称えましたが、ここでのベートーヴェンの「歓喜」はそれを上回る「やかましさ」です。今までのベートーヴェンの交響曲は、(「英雄」でホルンを3本使った他は)ハイドンやモーツァルトと同じ2管編成(管楽器が各2本づつ)でした。ところがこの終楽章に入ると途端に、交響曲には珍しい楽器であるピッコロとコントラファゴットと3本のトロンボーンがこれに加わって今までのオーケストラにはない充実した大きな響きをたてるのです。高音のピッコロが全体の音域をさらに上に広げ、低いコントラファゴットが木管楽器群の最低音を支え(コントラバスとまったく同じ音を重ねます)、重い音のトロンボーンが音量を増やし音の厚みを出しているのです。主題[譜例5]は晴れやかなハ長調で、やはりオクターヴを目指すエネルギィッシュな勝利の旋律です。第2主題[譜例6]もオクターヴを目指しますが、今度は下降する音型になっているのが面白いところです。しかしコーダで、上行オクターヴからなる新しい主題[譜例7](R.シュトラウスの『アルプス交響曲』に出てくる「登攀の主題」はこれに似ています)が登場して、曲を再び勝利の凱旋へと導きます。
最後はプレスト(急速に)となり、ハ長調の主和音だけからなる29小節もの長大な階段を登りきって、全曲をはなばなしく終えます。

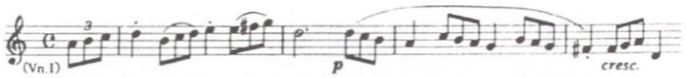
[譜例7]

第1主題



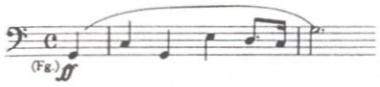
[譜例8]

第2主題



[譜例9]

再現部主題



学生研究発表＆無料相談コーナー

11月2日(日)
時間/10:00〜16:00
昭和区役所ホール

ピアノ調律コース

●ピアノの模型
コンサートピアノを1/7レプリカで再現！

●ピアノの歴史
ピアノの進化・発展を、日本・世界の歴史とあわせて解説します。これであなたもピアノ通。

●1日トライ！　実技コーナー
あなたも音の魔術師！調律を体験してみよう。

●ピアノの紹介
①ピアノができるまで―完成までをわかりやすく展示。
②ピアノの構造―巨大アクションで音の発生メカニズムを知ろう。

●世界のピアノ
どの地域にどんなピアノがあるのか、またその特徴は?

●ピアノのアフターケア
ピアノにとってよい環境とはなんだろう。
また、よいピアノの選び方は、どこにあるのかを伝授します。

管楽器リペアコース

●1日トライ、実技コーナー
①身近にあるもの(空き缶・竹など)で、あなたもマイスター(楽器制作職人)になれる!?
②クラリネットを分解しよう。
③リード選びに悩むなら、自分で作ってしまおう！

●メンテナンス法伝授！
①比べてみようこの違い―手入れしてある楽器、していない楽器。
②こんな事で音がこんなに変わるの？―長松正明氏考案グッズ。
③寿命の引きのばし術。

●管楽器の歴史
いったい、いつ、誰が、どのようにして作ったのか…。(フルート、クラリネット、サックス、ホルン、トランペット、トロンボーン)の6本について。

●管楽器の構造
フルート、クラリネット、サックス、ホルン、トランペット、トロンボーンの6本をすべてバラバラにして展示。

ギタークラフトコース

●音の出る仕組
【コンストラクション】
1本のナイロンの線、鉄の線から何ですてきな音色が生まれるのか。
音色の生まれるプロセスを順を追って紹介します。
エレクトリックギターの要のピックアップ、自分の手でも作れるのか？
CTAオリジナルピックアップの紹介とコイル巻の体験を!!

●自宅で出来るギター作り
【クラフト】
やってみればできるもの？…手間と暇をかけてでも自分だけのオリジナル！
【メンテナンス】
ここで差がつくメンテナンス
自分の愛器と長く付き合う必勝法を知ろう!!
断片的に知ってはいるが、いざやろうとすると意外な落し穴が…。
工具の正しい使い方から調整時のコツを紹介。

調律は本当に必要なの？

「☎リーン、リーン、リーン…」
「はい、もしもし、中部楽器技術専門学校です。」
「あのー、お忙しいところ、誠に申し訳ないのですが、
ちょっとお伺いしたいことがありまして…、」
「なんでしょうか…？」
「学校であれば、商売抜きの客観的な回答がして頂けると思いまして…。」
「どういったことでしょう…？」
「実は最近ピアノを買ったんですが、納品の時に「最低1年に1回は必ず調律をしなければならない」
との説明を受けたんですけど、本当に毎年調律が必要なんでしょうか？」

また、「毎年調律師の人から電話を頂き、調律を続けて来ました。今年もそろそろ電話がかかってくる時期ですが、別に問題なく音は出るし、ちゃんと音階にもなっているので、今年はやめておこうと思うんですが、やっぱりやった方がいいのでしょうか？」

「子どもの友達の家では、ピアノを買ったときに、調律が必要だなんて言われていないそうですが、私の家には、毎年調律師の人から『1年に1回は調律をしなければ、ピアノが悪くなりますよ。』との電話がかかって来ますが、一体何がどう違うのでしょうか？。」

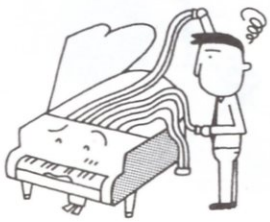
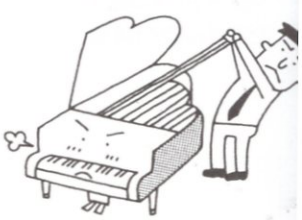
毎年「学校であれば」とのことで、このようなご相談のお電話を年間15件ほど頂きます。
表現は様々ですが、全て調律の必要性に対する質問ばかりです。きっと皆さんの中にも、日頃から同じ様な疑問をお持ちの方もいらっしゃることでしょう。ここで、その疑問にわかりやすくお答えしたいと思います。

1709年に、イタリアのバルトロメオ・クリストフォーリーが、《チェンバロ》を《ピアノ》に作り替えて以来、時代背景を伴う様々な必要性の中で《ピアノ》は幾多の進化を繰り返して来ました。当初、1音のために細い弦が1本だけ張られていましたが、より太く、より長く、次第にその数も増え、とうとう現在のピアノは、1音で3本（低音だけは1～2本）、1台（88鍵）では230～240本もの弦が張られるまでに進化を遂げたのです。当然、演奏者の求める高さの音にするためには、弦にかかる張力（両端の引っ張り合う力）も、太くなり長くなった分、それだけ強い力で引っ張ってやらねばならず、ついには1本の弦に90Kgという大きな力がかかる結果となってしまいました。

ピアノ全体には、常になんと約20トンもの、とてつもなく大きな張力がかかっているのです…。

だから、《弦が伸び、音が狂う》のです。《弾いても弾かなくても調律が必要》となるのです。弦が伸びるから

なぜ、調律をするの？ ➡ ピアノの音が狂うから ➡ なぜ、ピアノの音が狂うの？ ➡ ピアノの弦が伸びるから！ ➡ なぜ、ピアノの弦が伸びるの？ ➡ ものすごい力で引っ張っているから！

音にも伸びがあるのだと、考えてください。弦が伸びる余裕を失ってしまったら音にも伸びが無くなります。そうなってしまったらピアノの買い替え時、つまりはそれがピアノの寿命であると言うことです。

皆さんが調律の狂いに気がつきにくいのは、1音だけが下がるのではなく全体的に音が下がるため、音階が大きく狂うことがないためです。

ハーモニーにはかなりの狂いが生じています。ピアノ(鍵盤楽器)の最大の持ち味は、ハーモニーの上にメロディーを乗せて演奏ができることです。正しいハーモニーに調律されたピアノで練習しなければ、せっかくの練習も意味半減となってしまいます。

また、張力の低下により、音の伸びや響きにも何らかの影響が出ている筈です。正しいハーモニーに調律された状態で弦が振動するからこそ、アコースティックピアノならではの、様々な倍音を含み持った奥深く艶やかな、味わいのある音が奏でられるのです。

調律の必要とされる時期は、一般家庭の場合は1年に1回と言うのが、平均的なペースとされていますが、使用頻度やそれまでの調律の回数によって、大きく条件が違って来ます。断定は難しいところですが、ピアノが新しいほど弦の伸びる率が高いので、新品のピアノを購入後3～5年間程は3～6ヶ月ぐらいの間隔で調律することが好ましいと言えます。ある程度弦の伸びが安定して来れば、1年に1回の調律でもよいでしょう。但し、使用頻度の高い場合、精度の良い調律を求められる場合はその限りではありません。専門的にピアノ演奏を勉強されている方の場合は、3～6ヶ月に1度の調律をしなければ、正しいハーモニーを維持することはできません。

コンサートに至っては、たとえ毎日でもその都度調律を行います。午前と午後の演奏者が異なる場合等は、1日の内に2度調律をすることさえあります。正しいハーモニーに調律を仕上げるためには、理論上の数値でも1/100、実際に調律師は1/300～1/500の違いを聴き比べながら調律しているのです。

調律の必要性としてもうひとつ皆さんに知っておいて頂きたいことは《定期調律はただ単に調律をすることだけが目的でない》ということです。

1つの音が鳴るために50～60部品、1台では5000個以上もの部品が存在する、極めて複雑な機構をもつピアノの一つ一つの部品を、狂いがなるべく小さいうちに本来の位置に調整することにより、常に弾き易いタッチにしておくことや、調律の度にピアノの中のホコリを取り除き、ピアノの大敵である湿気を寄せ付けにくくしたり、錆などの発生や色々な故障を早めに発見し、大事に至らぬうちに処理することも、定期調律の目的である訳です。いわば《ピアノ調律師は、ピアノの定期診断医》であると理解してください。

さて、果たして皆さんのお宅のピアノは心身共に健康でしょうか?。必要な時々に調律師に定期診断をお願いされ、常に健康なピアノで楽しく演奏をして頂けることにより、皆々様が健康で楽しい音楽ライフを送られますことを心より願って止みません…。

ピアノライフを快適にするために

都心部では若い方々を中心としてマンションでの生活スタイルがすっかり定着しつつありますが、ピアノ愛好者の皆さんは、何かと近隣への音の気配りにお悩みの方も多いかと思います。

『もっと、思い切ってピアノをひきたい!!』

皆さんの切実な叫びが聞こえてきそうです。ここでは、そんな方々に比較的簡単にできる防音法のいくつかをご紹介します。

①ピアノの下にカーペットを敷く。
　(1) ピアノを持ち上げてピアノの下に敷き込む。
　　(但し、自分でできない場合は業者への依頼が必要)
　(2)持ち上げずに敷ける専用カーペットを購入して敷く(楽器店や調律師にお問い合わせを。)

②ピアノの部屋には、厚手のカーテンを使う。
　二重にするとさらに効果的。

③お隣の家に近い外壁寄りを避けたピアノの置き場所に移動する。
　(1)出来る限り間取りの中心になる部屋。
　(2)押入や階段室付近。
　(3)玄関付近 等。
　　(但し、自分でできない場合は業者への依頼が必要)

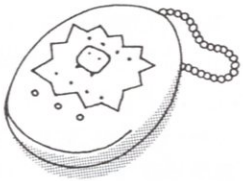
④ご使用のインシュレーター(敷皿)を防音用の物に交換する。防音中心の物、ピアノの響き重視のもの、兼地震対策の物など、さまざまな種類がありますので、楽器店や、調律師にお問い合わせを。

⑤ピアノの裏に毛布、又はフェルト類を貼り付ける。
　(アップライトピアノもグランドピアノも同様)

上記は、ほんの一例に過ぎません。さらに詳しい方法お聞きになりたい方は是非ピアノ相談コーナーへお出掛け下さいますようお待ちしています。

あなたの楽器はたまごっち？

『ぴーぴーぴー…』電車内で通勤途中のサラリーマンを横目に、
ポケットからおもむろに出し、あわててボタンを押す女子高生…
「あー、びょうきだー」　「あー、私のはごきげんななめー」
「ちゃんと遊んであげなくちゃだめよー」
「あっ、変身だー…、やっだー“ばいきんっち”になっちゃったー」
「注射が効かない！…あっ、死んじゃったー…」



今年の至る所で見受けられた光景ですが、大切に育てた人、いいかげんに育てた人。平均寿命は12～15歳だったそうですが、7歳で死なせてしまう人もいれば、45歳まで生きさせた人と様々だったようです。ともあれ人間の寿命に比べると短命だったようです。

またこのペット、死んでしまってもすぐに新しいたまごができるということからも随分人気があったようです。しかし、物が不足していた時代から、物が有り余る時代となり使い捨ての商品が増えた中で、ペットまでも使い捨ての時代になったのかと、考えさせられる年になりました。

管楽器も安価で手に入りやすい物から、高価な物まで様々な物が店頭に並んでおりますが、ぶつけてしまったり、掃除を怠ったりと、手荒に接してはいないでしょうか。楽器に対して丁寧に接していても、いろいろと問題が生じてくるのを見るにつけ、まさに楽器は“生き物”なのだと痛感します。

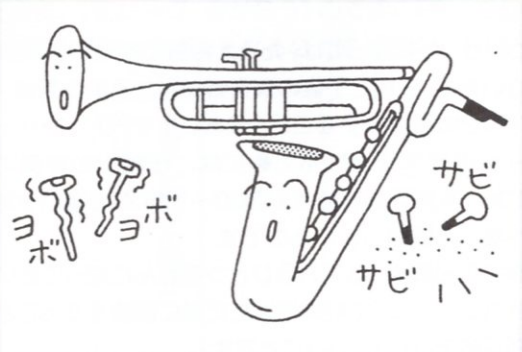
皆様の管楽器には以下の症状が見られないでしょう？

★症　状★

◆急に音が出にくくなった。
◆キイが動かなくなった。
◆ピストンが動きにくくなった。
◆“カチャカチャ”とキイやピストンにノイズがする。

★原　因★

◆消耗部品（タンポ・コルクなど）が老朽化。
◆金属部分が摩耗してキイアクションにガタつきが生じる。
◆サビなどによるスムーズな抜き差しが不能。



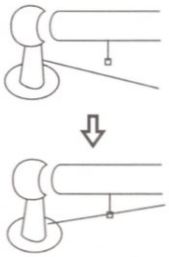
いずれの場合も、楽器店にもって行くのが一番望ましいのですが、『あしたコンクールなのに』とか『今からレッスンなのに』と一刻を争うこともあると思います。

そこで、今回は一般の皆さんにもできる管楽器修理（応急処置）の一例を症状とその原因・処置について分かりやすくまとめてみました。

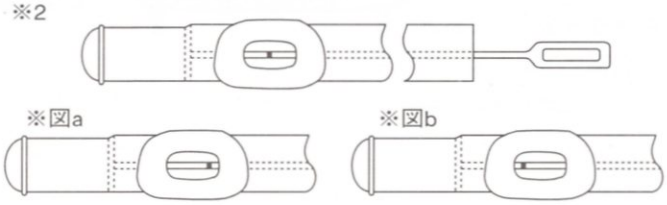
楽器は使い捨てではありません。これをもとに、あなたの“管楽器”をかわいがって下さい。

楽器	症　状	原　因	処　置
サクソフォーン	音が出ない （息が通らない）	ネックや管体にものが 詰まっている	ネックや管体の中をのぞいてみて下さい。 スワブやキイオイルの容器などが詰まっていませんか？ もし何か詰まっていたら急いで取り除きましょう。 自分で取れそうにないときは今すぐ楽器店へ!!
	キイが動かなくなった	バネが外れている	外れているバネをピンセット等でかけて下さい。（図1参照）
		バネが折れている	今すぐ楽器店へ!!
	キイを押すと“カチャカチャ” と金属音がする	管体やキイについている フェルトやコルクが 取れている	取れたフェルトやコルクが残っており、 箇所がはっきりしていればボンドで付けてください。
	音抜けが悪い 出にくい音がある	息漏れを起こしている キイのバランス状態が 不良	押してもふさがらないキイはありませんか。 特に連携箇所（1箇所押すと複数のカップがふさがるところ）は 注意して見て下さい。もし1箇所でもあれば今すぐ楽器店へ!!
	音がひっくり返る	オクターブキイの 連絡調整不良	オクターブキイを押していない状態でネックの オクターブキイが浮いていないか確認をしてください。 浮いていれば今すぐ楽器店へ!!
	ネックがはまらない	汚れが付着している	ネックと本体の接合部をきれいに拭いてから組み立 てましょう。
		落としたりぶつけたりして 接合部が変形した	今すぐ楽器店へ!!
	ネックが止めネジを 締めてもゆるい	止めネジが効いていない	ネックをつけていない状態で止めネジを止まるところまで 締めてさらにそこから少し止めネジを締める。
フルート	音が出ない （息が通らない）	管内にものが 詰まっている	管の中をのぞいてみて何か詰まっていませんか？ もし詰まっていたら急いで取り除きましょう。 自分で取れそうにないときは今すぐ楽器店へ!!
	キイを押すと“カチャカチャ” と金属音がする	キイについている フェルトやコルクが 取れている	取れたフェルトやコルクが残っており、 箇所がはっきりしていればボンドで付けてください。
	キイが動かなくなった	バネが外れている	外れているバネをピンセット等でかけて下さい。（図1参照）
		バネが折れている	今すぐ楽器店へ!!
	各ジョイント部がかたい	汚れが付着している	ネックと本体の接合部をきれいに拭いてから 組み立てましょう。
		落としたりぶつけたりして 接合部が変形した	今すぐ楽器店へ!!
	音抜けが悪い 出にくい音がある	反射板の位置が変わって しまっている	まず掃除棒で現在の位置確認をして下さい。（＊2参照） 次に掃除棒にあるスジが歌口の中央よりも胴部管側に ある場合（図a）は頭部管の頭のネジを締めて下さい。 逆に掃除棒にあるスジが歌口の中央よりも頭部管の頭の方 にある場合（図b）は頭部管の頭のネジを少し緩めて上から 押し込んで下さい。
		タンポが破けている またははずれている	今すぐ楽器店へ!!
		息漏れを起こしている キイのバランス状態が 不良	押してもふさがらないキイはありませんか。 特に連携箇所（1箇所押すと複数のカップがふさがるところ） は注意して見て下さい。バランス調整ネジのついている タイプの楽器の場合、もし浮いているキイがあれば調整 ネジをドライバーで締めたり緩めたりして同時にカップが ふさがるようにしましょう。（＊3参照）

※1

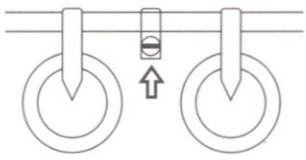


※2



次の図のように頭部管に掃除棒を入れて
反射板の位置を確認します。（歌口の中央にあればOK）

※3



次の図にあたる矢印部分
のネジを締めたり緩めたり
します。

楽器	症　状	原　因	処　置
トランペット	音が出ない （息が通らない）	ピストンが入れ違っている	ピストンの向き、場所を確認して正しい向き、場所に入れる。
		管内にものが詰まっている	今すぐ楽器店へ!!
		管内に汚れがたまっている	管の中を専用ブラシ、洗剤を用いて洗う。
	ピストンの動きが悪い	バルブオイルが切れている	ピストンにバルブオイルをさす。
		ピストンやケーシング中が汚れている	ピストンを外し、ケーシングの中とピストンを掃除する。
	抜差管の動きが悪い 抜差管が抜けない	グリスがきれている	抜差管の表面にグリスを塗る。
		古いグリスが固まっている	古いグリスを拭き取り、新しいグリスを塗る。
		抜差管の中がサビついている	今すぐ楽器店へ!!
	ピストンを押したり離したりすると“カチャカチャ”と金属音がする	ピストンの笠、底、軸が充分に締まっていない	それぞれをしっかりと締める。
		フェルトが無いか摩耗して薄くなった	今すぐ楽器店へ!!
	演奏中に“ビーン”というノイズがはいる	ネジ類がしっかり締まっていない	ネジ類をしっかり締める。
		溶接部分が外れている	今すぐ楽器店へ!!
	マウスピースが抜けない	マウスピースを付けたまま放置してサビついている	今すぐ楽器店へ!!
		マウスピースを付けてマウスピースの口を“ポンポン”叩いた	今すぐ楽器店へ!!

★以上のように一例をまとめましたが、修理・調整を行う場合は無理されないようにして下さい。
ここで取りあげた修理・調整内容については、あくまでも応急処置的なものですから分からなかったり
ご自分で調整・修理をされた時も、すぐ楽器店に持って行き専門家のリペアマンに見て戴きましょう。

自分流のファジーをもとめて…

パソコン、インターネット、電子メール、モバイルコンピューティング……

テレビ、新聞、雑誌等様々なメディアにおいて、このような言葉・文字を見聞きしない日が無いほど、今はまさにコンピューター産業だけなわです。複雑なコマンド入力を必要としていた時代から、マウスを画面上の指示に従って動かす作業で大半の目的が叶う様になり、作業量においてもその質においても、10年前からは想像もつかない程の進化・発展を遂げて来ています。

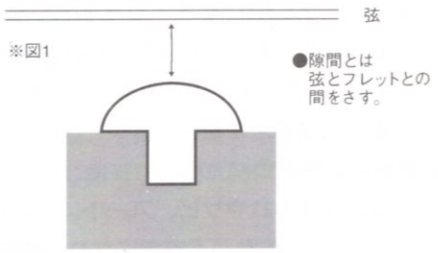
とりわけ電子楽器においては、自動演奏機能・サイレント機能等は、浸透しているどころか、今ではパソコンに接続し、北海道のコンサート会場で弾いている演奏が沖縄で、いや世界中でリアルタイムにそのまま楽しむことができるまでになっています。一方でコンピューターによる機械的な演奏では満足できない一般音楽愛好者が増え続けていますが、これは生演奏の揺らぎ、いわゆるファジーの部分を追求するあらわれでもあります。

ピアノなどの様に長い年月をかけて完成された楽器においては、演奏者の演奏能力、演奏表現により、その人の個性、ファジーが生まれるものですが、ギターのように近代生まれた楽器においては、楽器自体の完成度よりもむしろ演奏者独自の演奏法がその個性・ファジーを生む要素を多分に担っていることは言うまでもありません。いわゆる演奏者の個性が重要といえます。その個性に見合った楽器にギターを仕上げて行くためには、ある程度、所有者自信がギターの調整法について熟知しておくことが必要となります。

今日ではかなり詳しく雑誌等に、リペアや調整の記事が紹介されており、自分なりに調整を試みているプレーヤーも多くなりました。しかし、通り一遍の記事に惑わされて、落とし穴にはまってしまうケースが多々見受けられます。 調整を試みたものの、収拾がつかず、パーツをだめにしてかえって『修理代がかかってしまった!!』との声も多く耳にします。そうならないために、今回は“弾きにくさの解消法”として、ネック周りの調整のポイントを紹介したいと思います。

『弾きにくい!!』…と感じるのは、ほとんどがネックに関係している部分、特に弦高が調整されていないのが原因です。(フレットも同様)

⇒図①



弦高が変わってしまう原因は、

①弦の張力が加わり続け、ネックが変形してしまう。(アコースティックギターではボディートップの変化も加わる)

②弦のゲージを変えたためにロッドとのバランスが崩れた。

③季節によって気温や湿度が変化するため、木でできている部分が狂いやすくなる、等。

弦高が高すぎると弦をフレットに押さえたときに余分な力が必要となり、運指がしにくく、音程も上がり気味で正確なイントネーションが得られません。弦高がブリッジに向かって徐々に高くなっている場合はオクターブ調整で修正できます。

しかし、弦高が“順反り”を起こしてネックの中央部では弦高が高くなり、ハイポジションでは弦高が低くなっていると弦を押さえるのに必要な力がまちまちで、オクターブ調整をしてもイントネーションが不正確になります。

逆に弦高が低すぎる場合、運指は楽になりますが、弦がフレットに当たってしまい音がビリつき、ダイナミックレンジが狭くなり、豊かな表現が望めません。

"逆反り"を起こしているネックで、ハイポジションの方が弦高が高く感じられて、低く調整をしてみると、事態によっては、音程・音階が正確に得られない場合もあります。

アコースティックギターでは弦を支えている部分(ナット/サドル)を削らないと弦高の調整ができない点と、ボディーの変形との関係もあるためにプロの手にまかせるべきですが、調整機能が付いているエレクトリックギターなら自分の手でも可能です。

成功する為の手順と要点

準備編…

①弦のゲージ(太さ)とメーカーを決める

※弦の太さを変更した場合、テンションに違いが生じますが、同じ太さの弦であってもメーカーによって違いが出て来ます。

②新品の弦を使う

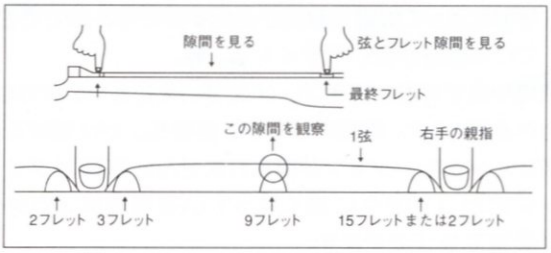
※古い弦は汚れやサビ、フレットにこすれてできたへこみ等で、振動が不安定になり、調整しても正確なイントネーションが得られません。

③正確なチューニングをする。

調整編…

①ロッドでナットから12フレット近辺までの反りを調整する。⇒図②

※図2

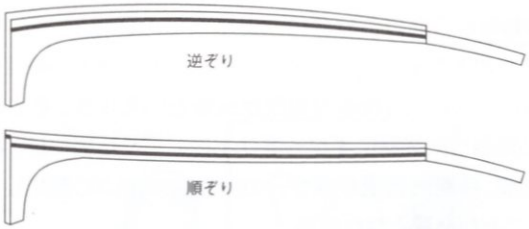


※基本的にネックが順方向(弦が引っ張っている方向)の反りのみ調整が可能。⇒図③

※図3

●逆ぞりの場合左へ回してゆるめる

●順ぞりの場合右へ回してゆるめる



逆に反っている場合はロッドでの調整ができないため、大掛かりな修理(もしくはネック自体の交換)が必要。

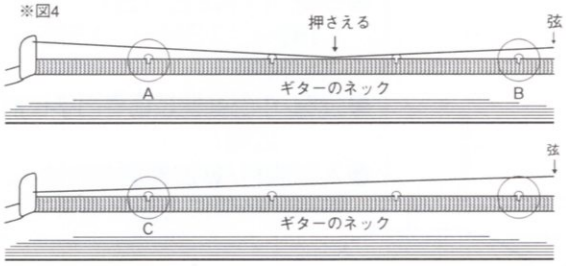
※ロッドの効果は厚みの薄いグリップ部分だけにしか出ないので、ナットからネックとボディーのジョイントまでの間で調整具合のチェックをする。

※調整は1/2回転を目安に!!
すぐに効果が現われないこともあるため少しづつ時間を掛けて行う。

②ブリッジで主にミッド～ハイポジションの弦高を決める。（12フレットで弦とフレットの隙間を側定）

②ナットの溝の深さを調整してローポジションでの弦高を決める。⇒図④

※図4



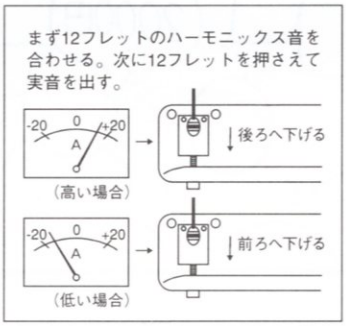
●弦とフレットとのすき間はBよりも少し広い

※基本的にローポジションで押さえにくく、押さえるとピッチが上がる場合に行う。
もう少しだけ弦高を下げたいがブリッジで低くしてしまうと弦がビリつく場合にも有効!

※作業が非常に微妙なうえ、専用の工具も必要になるため専門家プロにまかせた方が安全です。

③オクターブ調整でイントネーションを整える。
⇒図⑤

※図5



ただ、弦高の上げ下げは、ブリッジもしくはサドルを上下させることで簡単に調整できると思われがちですが、同じ『高い』と感じている弦高も実のところナット―ネック―ブリッジ（サドル）の3つの部分が関係しているためブリッジでの調整だけでは問題を解消できないばかりか、的外れの調整をしてバランスを崩し、余計に扱いにくい楽器にしてしまう事も多々あります。

以上で大まかな調整ができますが、全体の注意点として次の2点が挙げられます。

〈1〉必ず弦を緩めたうえで可動部分を動かすようにする。（無理に調整部のネジを回してしまうと、ネジそのもの破損により、調整自体が不可能になってしまう。）

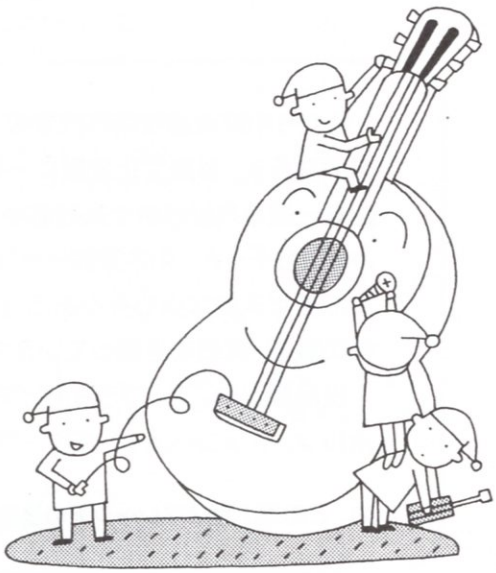
〈2〉正確にチューニングを合わせて、演奏する状態（ギターを抱えた状態）で各部の状態ををチェックする。これにより、正確な判断がしやすくなります。

ギターの調整は誰もが持っているドライバーなどの工具で行えるために、表面上では簡単に見えます。しかし、工具の使い方を誤ってパーツを痛めたり、適切な調整方法や手順を知らずに行ったがために、ネックをだめにするケースが見受けられます。

紹介した方法で調整の全てが可能になった訳ではありません。

実際にはフレットの高さを削って揃える作業も必要になりますが、微妙なさじ加減が必要な時は専門家にまかせた方がよいでしょう。

★自分の楽器をよいコンディションに保つために参考にしていただけたらと思います。

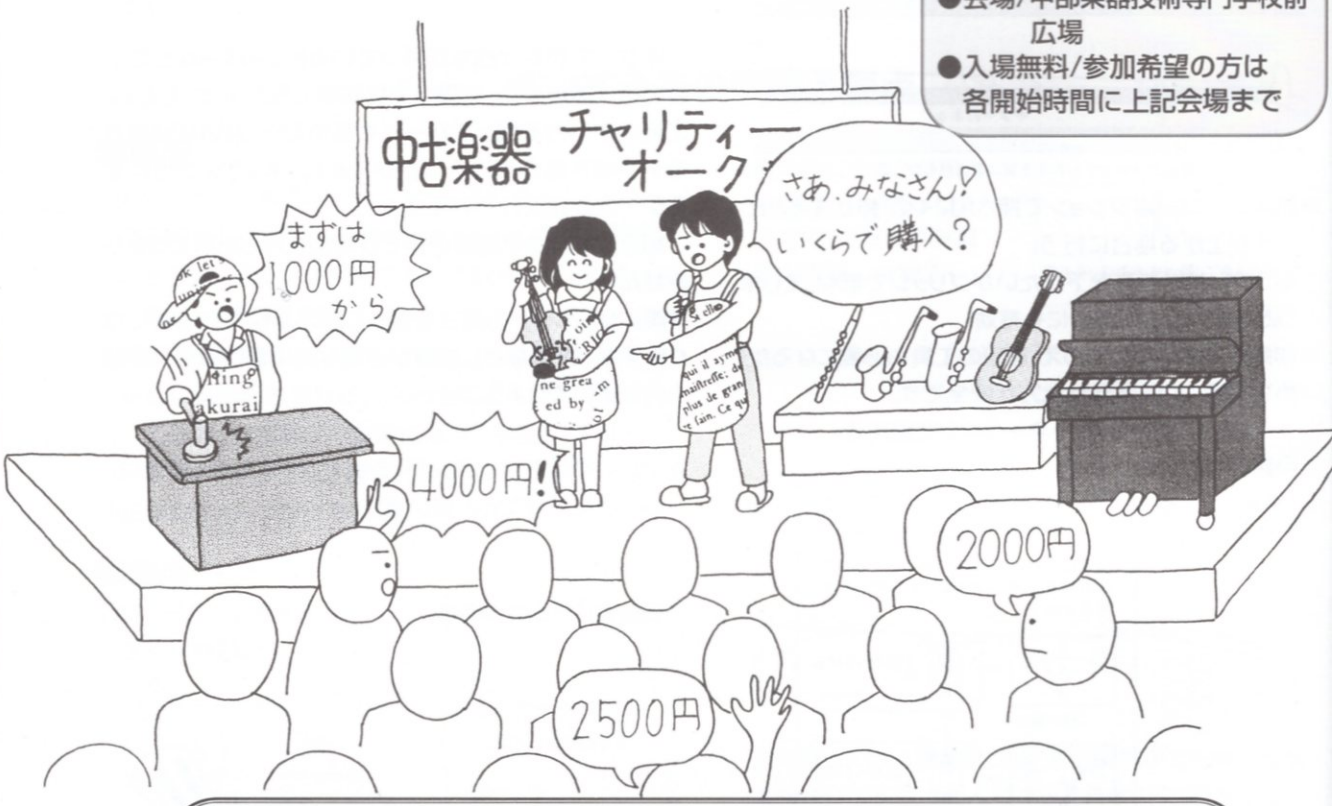


中古楽器チャリティーオークション

11月2日(日)

中古楽器を収集し、本校学生達の手による完璧なまでにリペアした楽器のチャリティー・オークションを開催致します。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

- ●日時/11月2日（日）
  11時～，13時～，15時～
  （全3回）
- ●会場/中部楽器技術専門学校前広場
- ●入場無料/参加希望の方は各開始時間に上記会場まで



私たち中部楽器技術専門学校では、文化祭行事の一環として学生達の研究発表のみならず、音楽文化発展に一役を担いたいとの思いから、使われなくなった楽器を一般音楽愛好家や楽器店から収集し、学んだリペア技術を駆使して、楽器をよみがえらそうと、中古楽器チャリティーオークションを企画しました。
まだまだ未熟な点も多々あろうかと思いますが、こうした活動で少しでも音楽文化の浸透・発展をと願っています。

出品楽器は、アップライトピアノをはじめ、クラリネット、フルート、サックス、ホルン、トランペット、ギター等、約50点をそろえました。

尚、この売上金はマレーシアの音楽文化発展援助の為、楽器の寄贈をする予定です。

本日のコンサートはいかがでしたでしょうか。

隔年毎に実施しています文化祭行事として、今年のコンサートは本校卒業生がヨーロッパでの活躍の場として12年にわたる友好交流のイタリアのアルベルト・ナポリターノ『プロゲットピアノ』社のご好意により、ジェミティ兄弟のピアニストをお招きすることができました。またこの演奏会を大いに盛り上げて下さいましたのは、竹本泰蔵先生の指揮、愛環音楽連盟オーケストラの皆様でした。そして楽器技術の習得に励んでいる本校学生達も秋山紀夫先生のもと、ステージで華やかにオープニング演奏ができましたことに学生達は満足しています。

3年前に中部地区にこんな立派なコンサートホールができました。演奏会も増えました。

でも、音楽を楽しまれる人がもっともっと多くあってほしい……一人でも多くの人に『音楽ってこんなに良いものなんですネ、また聴きたいワ…』との願いを込めて、都築正道先生に特別にご登場願い、楽しいお話しを頂くことができました。今日のコンサートをきっかけに音楽をより一層楽しんで頂ければ幸いです。

なお、11月2日には楽器愛好者の皆さんに楽器の正しい知識を知って頂くためのイベントや楽器のオークション等、盛り沢山の企画で全校あげた学生達の『手作り文化祭』を実施します。お友達やご家族ぐるみでぜひご来場下さい。本日のプログラム12～20頁に楽器のメンテナンス知識を掲載致しました。ご一読下さい。

いい演奏・いい聴衆・いい楽器…の三つが揃ったときにいい音楽が生まれるのです。どうか生活の中で音楽をこよなく愛してエンジョイして下さい。

中部楽器技術専門学校

〒466　名古屋市昭和区阿由知通三町目13番6号

TEL〈052〉741-6788(代)　FAX〈052〉741-6789